レシピ＃005　　R3.8.26

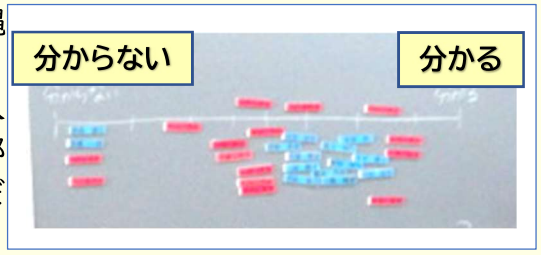
一人一人に学びを成立させる教師の思い

SDGs　目標04　質の高い教育をみんなに
「誰一人取り残さない」

〔安達地区〕
中学校　道徳科の授業より

授業のワンシーン

あるクラスが、運動会の学年種目「大縄跳び」で一位を目指して練習しています。ほとんど跳べない矢部ちゃんを入れるか入れないか議論しています。岩井君の「矢部ちゃんが入ると勝てなくなってしまう。だから、今までどおりがいい。」という意見についてどう考えるか、自分のネームプレートを黒板に位置付ける場面がありました。迷っている子は、近くの友達と対話しながら貼る位置を決めています。周りの子が貼り終えた頃、最後まで考え込むＡの姿がありました。



授業者は、Ａのそばに立ち、「じゃあ、みんなの考えを聞いてみよう。」と声を掛け、「①分からないと考えた子」「②分かると考えた子」「③その中間だと考えた子」のそれぞれの考えを引き出し始めたのです。それぞれの立場の友達の考えを聞き終えたＡは、「じゃあ、この辺りかな。」と、自分のネームプレートを貼ることができました。自席に戻る時のＡの笑顔が、印象的でした。

ここがオススメ！

もし自分が授業者だったら…？

研究授業の時に、「時間も押しているので早く進めないといけないな。」と考えたことはありませんか。そんな時に、自分の考えを決められずに、迷っている子がいたとしたらどうでしょう。あなたが授業者だったら、どうしますか。「迷っているなら、真ん中に貼ってみたら。後から変えてもいいからね。」なんて、教師の都合のいいように声を掛けることも考えられるでしょう。

しかし、この授業者は違いました。Ａの困り感に心から寄り添い、Ａが自己決定できるように授業を丁寧に進めていきました。先生がＡのことを尊重し、納得できるように待っていることは、本人はもちろんのこと、学級の子どもたちにも伝わっていたことでしょう。

授業者の姿から、自分の授業を成立させることよりも、**「子ども一人一人に学びを成立させること」**が大切であることを、改めて考えることができました。

【参考資料】「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けてP.14～15